

女性目線で現場明るく

てるね」と言われたり、通りすがりの人に「土木現場に女性がいた」と注目されました。私も若かったので気にしなかったし「注目されるのもいいことかな」と思っていました。現場では職人さんにかわいがってもらいました。

●高妻 私も入庁1年目の職場では、女性土木職は私1人でした。当時は県土整備部全体でも10人を切るくらいでとても少なく、職場としても慣れない部分があったかと思いますが、温かく迎えていただきました。

●柏倉 同僚・先輩に恵まれて仕事ができていると思っています。でも、男性社会だと感じる面も多いです。大きな声が飛び交う体を張った仕事が多く、まさに男性一色の現場。暑い日などは日焼けしたくないという思いもありますし、暑さ寒さに左右される職業なので大変です。



大森氏

●板 日焼けもそうですが、女性なので服装面も気になります。作業着、安全靴などまだまだ女性用が少ないしサイズもないんです。また体力の面でも男性社会だと思います。

●須藤 以前と比べ「女性を排除しない」というところまでは男性の意識は変わってきているのではないのでしょうか。しかし環境整備の面をはじめ、今はまだ、女性も

働きやすい環境とは言い難いと感じます。ただ、女性が珍しいということもあり、周囲が気を遣って接してくれているのを感じますし、少なからず今の職場（行政）は性別の関係なく働ける職場です。

—実際、業界に入った当初と比較して職場環境に変化は感じますか。

●黒川 今回受けた仕事で、現場の看板を変えようという話があって、他と違う私らしさを出してもらおうと、看板をコンパクトにして、桜の花をバックに入れ、かわいらしいクマの絵を入れてもらいました。それをきっかけに、近所の方からも「かわいい看板だね」と声を掛けてもらったりしています。

●栗 女性技術者が増えた点です。入庁当時、土木職の女性は5人程度でしたが、今は20人を超えています。入庁当時は女性が少ないことで心細さもありましたが、最近は土木職の女性同士で同じ職場になることも増えて相談事もしやすくなり、働きやすくなってきていると思います。また、「トンネル工事に女性は携われないし、現場見学もできない」時代もありましたが、労働環境の改善や法律の改正により、女性も携われるようになったことは現場環境における変化だと思います。

●柏倉 一番感じるのは衛生面です。入社当初は現場のトイレは男女兼用でしたが、最近はどの現場でも女性専用トイレもあります。トイレだけではなく、更衣室、休憩所の分煙の徹底など衛生面の改善も増えています。

●小野崎 現場に私が入って変わったと思えることはないんですが、昼間は現場、夕方から事務作業が入るので大変な職場になりました。

●板 私のいる現場は現場事務所もなく、仮設トイレも男女兼用、それも電気がないので、夜間は真っ暗になってしまい、私はその



須藤氏

トイレを使う気にはなれませんでした。

◆イメージアップのため

—業界のイメージを変えるにはどのような改善策が必要だと思いますか。

●小野崎 やはり衛生管理です。女性専用トイレや更衣室など身近なところの整備が、ますます進むとイメージも改善されていくと思います。

●大森 いまだに現場の仮設トイレは「汚い」「臭い」「鍵が不安」などマイナスなイメージがすぐ浮かびます。初めて現場を担当した時、先輩に「現場事務所のトイレに入る勇気があるか！」と聞かれた事を思い出します。現場のトイレは男性にとっても勇気を持って使うものなのかと思いました。最近は女性専用トイレなど設置する現場も増えていると聞きます。建設現場の職場環境を改善すると業界のイメージアップにつながりますよね。

●柏倉 逆転の発想ですが、私は男性の更衣室を設けてほしいです。現場に女性がいても平気で着替えを始める男性もいるんです。そうした環境改善の取り組みがあってもいいと思います。

●黒川 私も環境整備からイメージは改善されると思います。それから土木の現場にも「女性もいるんだよ」というのを分かってもらうように、一般の方に向けたイメージアップ策も必要ではないでしょうか。



黒川氏

●須藤 県発注の工事看板には「とちまるくん」を積極的に入れていますし、仮囲いもイメージアップに使えますよね。工事概要や現場のPRだけでなく、例えば子供たちが描いた絵を仮囲いにプリントするなど、地域の方とのコミュニケーションがとれ、現場の前を通る人が笑顔になれるような仕掛けもイメージアップの一つだと思います。



板氏

●栗 現場を整理整頓することや工事中の一般の方への通行への配慮、道路工事における土ぼこりを押さえる工夫など、工事現場における安全対策や環境改善も業界のイメージアップの一つであり、良い印象を持ってもらえるきっかけになると思います。

●板 私も看板の工夫は大事だと思います。以前現場の看板に「とちまるくんを入れよう」という話が上がったのですが、その現場は茨城県なので却下されました。やはり誰もが目にする看板なので、誰が見ても工事の内容や工期が分かりやすく、また親しみやすくすることも重要ですね。

●柏倉 「3K」のイメージをなくすのは大変だと思いますが、それで許される時代ではないと思います。環境改善は必須事項です。弊社でも「ノー残業デー」を始めたり、ITの導入で業務の効率化を図っています。対外的にはインターネットのホームページや、フェイスブックで、日々の出来事を発信しています。外部へのPRと内部の働きやすさの両面でバランスが取ればイメージも良くなるでしょう。

●栗 仕事にメリハリをつけることも大事だと思います。残業が少ない、休暇が取りやすい、できる事とできない事が明確、などが改善されれば、男女問わず働きやすい環境になると思います。核家族

